

談話室

E・・国の寓話

An Allegory of the Country Called "E"

長野浩司*

Koji Nagano

あるところに、E・・国という国がある。過去には戦禍や飢饉、疫病に苦しんだこともあり、現在も地方紛争や環境汚染などの問題を抱えてはいるが、まあ全体としては着実に発展してきたものだ。

E・・国の現在の悩みには、限りある資源、環境汚染の進行などと並んで、一向に縮まらない貧富の格差がある。この国の住民を、富裕な貴族と貧しい庶民とに便宜的に分けてみよう。もちろん、身分制などないこの国で、両者の間に明瞭な区別はないのだが、仮に人口比で1:3に分けることにする。すると、人口の約1/4を占めるに過ぎない豊かな貴族が、国の富の約3/4を保有している。これを簡単な図に表すと、図(a)のようになる。一人あたりにすると、貴族と庶民とでは約10倍の格差があることになる。

さて、旅人のN氏が、たまたまE・・国に旅装を解くこととなった。N氏はこう見えて道徳家であり、E・・国の現状を見聞するうちに、その貧富の差について次第に想いを巡らし始める。

N氏は考える。「貧富の差をなくす一番簡単な方法は、貴族の富を1/10に減らしてしまうことだ(図(b)を参照)。こうすれば、E・・国全体の資源や物資の消費量は13ユニットから4ユニットと、約1/3に減る。そうすれば、E・・国の汚染物質の排出も現在の4割程度にまで削減できる。おお、これだけ減らせれば、この国の環境汚染にストップをかけることができる。」

「しかし・・・」とN氏は躊躇する。「果たして貴族は納得するだろうか。この国の貴族は、決して庶民を搾取して豊かになったわけではない。父祖たちが、後代のために良かれと勤勉に励んだから、現在の豊かさがあるのだ。その富を奪い取ることが、果たして倫理

的に正しいのだろうか・・・？」

N氏は再び考える。「あるいは、庶民の富を何とかして10倍に増やしてはどうだろう。庶民は貴族の暮らしぶりをつぶさに見てきており、いつかは自分たちもあなりたい、家電製品も高級な自家用車も欲しい、と念願して暮らしているのだ。その彼らの願いを、貴族の側から拒むことはできないはずだ。」

「しかし・・・」とN氏は峻巡する。「そうなれば、E・・国の富の総量は現在の13ユニットから、40ユニットにまで増やさねばならない(図(c)参照)。実に現在の3倍だ。汚染物質の排出量もそれに近く増加し、環境汚染に拍車をかけるだろう。現在の状況下におい

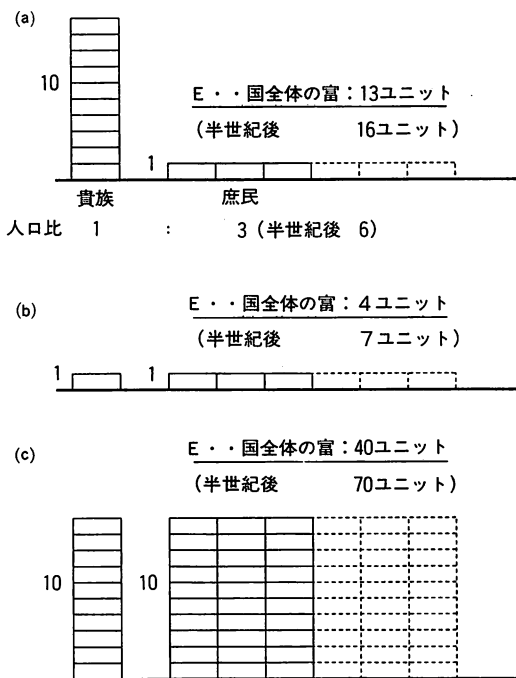


図 E・・国における富の配分

* 勸電力中央研究所 経済社会研究所
エネルギーシステムグループ担当研究員
〒100 東京都千代田区大手町1-6-1

てさえ、環境汚染の拡大進行が強く懸念されているのだ。これはE・・国の環境には修復不能な打撃を与えるだろう……」

さて、E・・国にとって望ましい解決策とはどのようなものなのだろうか。N氏の空想には、E・・国で今後起こるであろう経済成長、あるいは人口増加と一人あたり生活レベルの向上、は全く入っていないので、実際の問題はさらに複雑なのだ。事実E・・国では、約60年後には貴族の人口はほぼ変化なく、庶民の人口は現在の2倍程度に増加するとされている。すると、図(a)–(c)の各々の様相は、点線で示したユニットをも必要とするように一変してしまうのだ。

経済(Economy)の成長、エネルギー(Energy)を

含む資源、環境(Environment)の間のトリレンマ問題が指摘されているが、資源配分の「倫理(Ethics)的側面」をも、つまりE・・国における4つのEのすべてについて考えるとすれば、問題の難しさは途端に幾重にも増してしまう。

この寓話には結末がない。N氏(これを日本と読み換える方もおられるかも知れない)は、正に国際社会の難題に直面しているのであり、貴族と庶民の間を取り持つその責務は、重く、大きい。

(注) 図における1ユニットを約27EJ、あるいは約20GJ/人×約14億人として換算すれば、概ね現在の地球上の1次エネルギー消費の状況と対比できる。

海外ニュース

SSDの販売をABB Power T&D社へ委譲

(ABB Power T&D Co. and Superconductivity, Inc. Announce Marketing Partnership)

Superconductivity社(ウィスコンシン州)は、このほど、同社が開発したSSD(超伝導エネルギー装置)の販売権をABB Power T&D社(ノースカロライナ州)へ委譲すると発表した。

SSDの超伝導マグネットは、ニオブ(Nb)とチタン(Ti)のワイヤーから構成され、 -450°F (-232.2°C)の液体ヘリウム(He)中に浸せきされている。このマグネットは、メガジュールの電気エネルギーを貯蔵することができ、数千回の急速充電と放電を繰り返しても劣化しない、と言われている。SSDのシステムは、全長48フィート(約15メートル)のトレーラーに搭載されて、必要な現場に運ぶことができる。

なお、詳細は、下記へご照会下さい。

Ms. Jennifer Billmann / Superconductivity, Inc. / P. O. Box 56074 / Madison, Wisconsin 53705-9374 / U. S. A.